桃太郎カルタ

米山エン

此の紙上で桃太郎カルタに就いて皆様方にまみゆるの光榮を深く感謝いたします。

何故桃太郎の童話を題材に撰んだか。

桃太郎の童話は隨分古くから人口に膾炙されて來たものであります、今のお爺さん、お婆さんも、お父さん、お母さん等、皆様、がなつかしい伽噺として聞かされた親しみ深い童話で御座います。然し近來多少これに就き批難なさる方もありますが、私は次の様に考へて居ります以下この童話につき述べさせて頂きます。扨てこの話は。

我國民族の發展の歴史を童話化したものであつて我國今日の發展は歴代の　天皇　が忠勇無二の國民達とお奮闘を遊ばした賜と存じます。さうした方々の御偉業を童兒に迄知らしめ國家の有り難さを思はしめて、家庭教育の助けとしたものと存じます。實にこの作者は、國家觀念の强い、思想の確かな、方で、しかも幼兒の心理を巧みにつかんで居る立派な文學者であると思ひます。この話の中心思想とでも申しませうか卽ち

家旅制度のよつて起る、夫婦の愛、男の務、女の務、を明にし、桃太郎の自然の教育、農本國としての本領、義による擧兵等實によく話されてあります。

夫婦愛として男は外に働き、女は家を治める處、

お婆さんが桃を見つける等、自然に人間の發生が女に負ふ處重且つ大であると云ふ風に說かれて性教育の問題を簡單に解決してあります。しかも桃の實を選んだ處に意味愼重なものがあると存じます。(今の性教育から云ふと少しは批難をまぬがれぬ事と存じます。)

實にこの受胎と云ふ事は先づさきに女――母がみとめ然る後男子――父が承認するものであると存じます。こゝに女の志操堅固が强調される所以と思ひます。

老夫婦がまちあぐんで居た子寶を得たその感慨の樣も伺はれてそこに和氣に充ち滿ちた夫婦愛がいとなまれて居ます。

桃太郎はこの間にあつて自然の野原で極めて自然に、自由に教育せられ、立派な生長をして居ます。實に子供の教育上その自然の發育をみつめて育てる事は、一番大切な事と存じます。往々自然にさからつて子供を毒する事があります、近來子供を野に育てよとよく申します、子供から自然さや、自由さを取り去つたならばどんな事になるでせう。

この桃太郎の自然の教育を誇張する爲と子供の尤も喜ぶ天然の友を配して居ますその述べ方の巧みさ、彼の智仁勇の象徵である犬、猿、雉、を選んだ事は實に妙を得て居ます。

然して自然及これ等を環境として美事な夫婦愛の中でいつくしみ育てた處にこそ教育の要諦があるのです、かくてこそ桃太郎は偉いのであります。

次には農本國としての本領とでも申しませうか、その戰の準備に金を選ばず、兵器を選ばず、兵糧を選びしかも黍のもちを選んだ點はその當時の國民生活の程度も忍ばれ又、戰時の兵糧として至極便利なものを考へたものであると思ひます。然してその反面に我立國の元たる農を擧げて五穀

の一を知らして居ます。

次には鬼が島征伐のことでありますが、これは確かに義による擧兵であると思ひます、血氣にはやる桃太郎が惡人の横暴跋扈に憤慨し、不義、不正、に對してはあゝまで同宿を許さぬと云ふ義憤、公憤の表らはれと、天地の弘道に基き人間としての平等愛により四海平和に暮し度と希ふ心もちによつて兵を起したのであると信じます。

分捕品についても決して桃太郎から望んだのではなく當然、戰敗國として出さねばならぬ賠償物であります。この童話に就て或人が我國の主義主張の露骨なものであつて、戰鬪侵略主義を表はしたものと批難なさるのでありますが、決してそうではありません、若しかりに侵略主義ならば何故、鬼が島へ我國旗を立てゝ歸りませんでしたでせうか、この昭和の御代までに數度の干戈を外國と交へて居ます、又德川時代には平和の內に侵略の出來た國もあつたと云ふ事です。斯樣にして多大の犧牲をはらひながらも領土の擴張は僅少なるものであります、我國民性の淡白、無慾の點を十分に發揮して居ると存じます。

然してこの凱旋軍を迎へる老夫婦や村人の喜びは又ないものであつて、鬼を無事退治して來たことをよろこび合つて居ます、こゝに民衆愛の發露があり社會と自己との存在がはつきりして來るのであると思ひます。

考へて見ますに人類有史以來戰なくして存續して居る國はまれで、續くも戰ひ、亡びるも戰ひ、であると思ひます、我々人類の上には劍戟の戰か、經濟的の戰か、文化的の戰か、なにかあるものである事を記憶しなくてはならぬと存じます。

私の狹い智識內で知つて居る童話中恐らくこの桃太郎に優つたものは他にないと斷言したいと思ひます、而して幾百春秋を經ても幾多の傑作が出

來てもやつぱり童心藝術の上に燦として光つて居るものと思ひます、又この童話の生命のつゞく限り我國民思想の惡化は斷じてないものと信じます。

斯樣の見地からして私はこの童話が大好でございます、稚氣滿々の處、野趣に富んだ點、私達の知らぬ大祖父さん、大祖母さん、達の子供時代にも今の桃太郎の若さでその幼な心を慰めたものであると思つた時一層なつかしさが增します。それで自然の間にこれを題材としてカルタに作りました。

何故文字を配してカルタとしたか。

幼兒と文字慾との關係を可成り檢べました、又家庭に於てこの問題をいかに考へて居るかも調べて見ました、その結果が幼稚園教育に於て只觸れてはならぬとして居る事は非常なる不自然な事であつて、むしろ教育的にこの種の幼兒の文字慾に對して滿足を與へると云ふ方法こそ大きな問題ではないかと思ひました。

然しこれによつて初等教育の方に惡影響を及ぼん事は決して完全なり幼兒教育とは申されません、來るべき生活に向つて雄々しくも自己を善處して行く幼兒に仕上ぐる事が我々の務の第一と存じます。

幼兒の文字慾の滿足。面白い繪の中に文字を配して玩具として與へる事は一種の文字の遊戯化であります、そして求めたいものは遊びながら自由に文字との交渉を深めて行きます事と信じます。

之れ卽ち、

文字の潛在意識化。であつて文字習得上非常な精力の經濟であると信じます。ひいては學習生活を容易にするものであると考へます。

カルタを取る心持ち。これは、適應、優越の快味とでも申しませうか、一刺戟に對する自己の心意的活動の適中その瞬間の快味は又ないものであります。私共大人が何が面白くてカルタ取りに熱中するかと申しますと、勝敗でもなく又あの氣分でもないらしく、眞に取るその事の面白味であると思ひます、それはこんな心理的作用とも考へら

れます。

一つの刺戟に自分の心身が敏捷に働いた、しかも正確であつたと云ふ適應の心よさであります、これが段々と巧みを加へて來ますと相手に強いものがほしくなります、そして惡戰苦闘遂に强敵の札を一枚でも取り得た時の優越の快味は又特別のものです。

これ實に人類生存競爭の妙味もこんな處に含まれてあるのではないでせうか。

いかなるものでも自己の優越を欲しないものはありません、この優越感こそ自己の向上を計り國家、社會、を文化に導く大切な本能寺であると思ひます。子供の喧嘩好きは必ずしも故なきではありません、第一義主義に以てみづから任じたがる子供の心もちはこの優越本能の致す處です。

次に讀札及取り札につきまして一言申し上げたいと存じます。

讀札につき。

片假名にてアイウエオ順に排列してそれぞれの字に就き五句ほど作つて、一番調子のよい內容のよく表はされたもの、幼兒の文學的愛好心にふれたもの、句の內容がはつきりと繪にあらはす事の出來るもの、等思つて考案いたしました。何分まだあきたらぬ點があります十分御敎へ下さいませ。

取り札について。

一つ一つの句の內容を一寸見てすぐ取れる樣と思ひましたから或は無理な表現になつて居るかも知れません、最も原案は可成複雜なものでありましたが。今度フレーベル館から發行するものはほんとに心地よく修正されて居ます。

皆樣方の幼稚園で冬の保育の計劃中の一つにこのカルタ遊びをお加へ下さる事や御家庭のお正月中の御團欒のプログラム中に御加へ下さいます事は、なんとうれしい事でせう、この少さな私の心は只光榮のよろこびに打ふるへて居ります。

何卒この目出度き桃太郎を年の始めからにこにとすこやかにお遊ばせ下さいます樣。

何分のおいつくしみを御願ひ申し上げます。